



聖 鐘

日本聖公会東京聖三一教会

〒155-0032 東京都世田谷区代沢2-10-11
TEL 03-3421-3646 FAX 03-3414-9023
URL trinity.web.infoseek.co.jp

牧師 司祭 高橋 顕

ときめく

司 祭

高 橋 顕

「時」ということについて、二つのとらえ方があります。一つは、ひたすら流れ続け、あるいは、ひたすらくり返し続けていく、そのような「時」です。私たちは、年月日の数字が書かれた暦や、時を針で刻む時計によって、この流れ続け、くり返し続ける「時」を知りまします。このような「時」を、昔のギリシヤ人たちは「クロノス」と名づけました。一方、もう一つの「時」とらえ方があります。それは、二度とない、まさにこの時、という「時」です。この「時」を、かつてのギリシヤ人たちは「カイロス」と名づけました。私たちは生涯の歩みにあつて、このカイロスに直面します。「何かが起こったその時」「出会いの時」「気づきの時」「チャンス」「好機」「潮時」「意味のある時」……。

聖書には、「時」について語り、私たちに「時」についての示唆を与える箇所がいくつもあります。「今や、恵みの時、今こそ、救いの日。(2コリント6・2)」

「どうして今の時を見分けることを知らないのか。(ルカ12・56)」 「神は、定められた時に、宣教を通して御言葉を明らかにされました。(テトス1・1)」 「時をよく用い、外部の人に対して賢くふるまいなさい。(コロサイ4・5)」 「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くて悪くても励みなさい。(2テモテ4・2)」 これらの箇所「時」や「折」という言葉は、聖書の原文のギリシヤ語では、すべて「カイロス」が用いられています。クリスチャンは、「カイロス」の時を見失わず、「カイロス」に臨んで歩む主の家族です。聖書に記されている、神に出会った人、イエスに出会った人、イエスに呼ばれた人、イエスの言葉を聞いた人は、みな「カイロス」というかけがえのない「時」に臨み、新たに生かされた人たちでした。

私たちの東京聖三一教会のこれまでの歩みは、まさに「カイロス」というかけがえのない「時」の積み重ねであったと感じます。この東京聖三一教会をとおして、これまで、一人一人の方々が、二つの出来事に出会い、神様と共に生きていくことを証しし続けてきたと思えます。それは各自の自分の思いを満足させ、自己実現をめざすという、人間的な営みでは決してなく、ひたすら神に頼り、神と共に仕えていくという、主イエスの示された道を、主イエスと共に歩み進んできた姿です。私たちが「カイロス」に臨む時、そこには必ず主イエスが共におられます。これまでも、今も、そしてこれからも、東京聖三一教会の私たちは、主イエスと共に、神様から与えられた「時」、「カイロス」に臨んでいくのです。

人は「カイロス」という「時」に臨み、「ときめく」姿に輝きます。日本語の「ときめく」の「とき」は、「時(とき)」のことであり、それは「カイロス」の「時」です。ときめいている人は、カイロスという時にあつて、出会いや気づきや出来事に生きているのです。東京聖三一教会は、これからもますます、ときめく教会であり続けましょう。主イエスと共に歩みながら。

教会委員会議事録抜粋2011年2月～6月

<2月>

- ・人事異動の公示(1月31日)。長谷川正昭司祭は4月1日より真光教会へ、後任に阿佐ヶ谷聖ペテロ教会より高橋顕司祭を迎える。
- ・月島聖公会募金。先に募金箱献金を行ったが、更に募金のアピールがあり、今後は個人献金とする。
- ・会計報告。1月度の収支は約40万円の赤字であるが、昨年と比べると赤字幅が減少した。
- ・メンテナンス報告。暖房関係の動力を75アンペアにアップ。礼拝堂の温度設定は担当者のみが扱う。電話PBX装置10台を6台に。インターネットのため光ファイバーの導入を計画。

<3月>

- ・災害募金先。海外自然災害:ブラジル災害を日本聖公会管区が支援、当教会も東日本大震災の状況を見ながら献金箱を設置する。東日本大震災:献金箱の設置を決議、募金を開始する。
- ・モニカ会の担当者。現担当者の後藤務氏が教区財務委員長に就任したので、モニカ会の引き継ぎを希望。
- ・信徒奉事者の推薦について。矢野敬子氏、砂田郁郎氏、中込禎代氏、本多峰子氏、中野誠氏、湯田正範氏、村上道夫氏、後藤寛氏の8名の信徒奉事者を主教に教会委員会として推薦する。
- ・会計報告。2月期としては良い状況にある。
- ・教育担当報告。大人の日曜学校スケジュール。5/15映画会、6/19講習会「車椅子の正しい乗り方・扱い方」、8/28子ども映画会、9/18講習会、11/20映画会。
- ・その他スケジュール。8/14平和の集いコンサート。

<4月>

- ・高橋顕司祭は4月1日に牧師として就任、6月5日の主教巡回日の主日聖餐式に牧師任命式が行われる。
- ・礼拝時間、牧師の予定。日曜日 8:30聖餐式、9:30ぶどうの木、10:30聖餐式、16:00夕の礼拝。教会の定める祝日(水・金以外)7:30聖餐式、火曜日(第1以外)10:30聖書を読む会、金曜日(第2)19:00聖書を読む夕べ。月曜日は基本的には休日。木曜日は、外部からの依頼業務が多いため、聖餐式はできなくなる。
- ・6月のリース切れによる電話設備の見直し。電話設備に、大容量のデータを扱うLANの導入をリース料金に組み込み、業者を決定した。

<5月>

- ・聖霊降臨日(ペンテコステ)。6月12日に創立記念日という趣旨でパーベキューとミニバザーを行う。
- ・バザー(10月30日)。今年度はバザー準備会のメンバーを選び、そこからスタートさせていくことに決定。
- ・教会の現状とこれからについて。このまま礼拝堂およびトリニティーハウスを維持していくことは、問題が多い。建物と教会そのものについて、信仰に基づいた考えを踏まえ、今後教会委員会でさらに検討していく必要がある。

- ・教会の活動・行事の保険について。従来、教会の活動、行事ごとに加入していた保険を一括加入で承認。
- ・会計担当報告。4月收入全体では昨年度よりも30万円ほどプラス、支出10万円ほど減少。電気工事の効果が出た。しかし、さらに何らかの対策を考えない限り早晩積立の取り崩しが必要と思われる。東日本大震災義援金については、今後も継続的に呼びかけを続ける。
- ・総務担当報告。正門横の看板交換、掲示板新設、事務所前のアクリル板交換。2011年版名簿を6月に発行。
- ・壮年会報告。恒例のバス旅行を9月13日に行う。
- ・広報報告。5月21日教会パンフレットの改定を協議。

<6月>

- ・主教巡回日(6月5日)に大畑喜道主教の司式で高橋顕司祭の任命式が行われた。この日の聖餐式において、ヴェロニカ中村博美子さん、飯島喜久子さんの堅信式および洗礼盤の祝別式を大畑喜道主教が執り行われた。
- ・教区フェスティバルの連絡員に千村雅信氏を選任した。
- ・バザー(10月30日)の体制が承認された。委員長に加藤史人さん、補佐に後藤敬一さん、名倉裕子さん、東邦子さん、広報に久慈優理さん、高橋典子さん、高橋牧さん。また、川崎葉子さんに準備委員をお願いした。
- ・「東京教区によるアジア学院支援活動」の発起人会への参加要請があり、尾澤うめ子さんが選任された。
- ・礼拝報告。7月より、唱詠聖餐式の入堂時を除き、主日礼拝の入退堂は聖歌を歌いながら行う。主日礼拝の「報告」について。報告者は礼拝前に牧師に報告内容を申出、確認を得たうえで報告する。
- ・会計報告。5月単月で60万円の赤字。
- ・総務報告。2011年度版信徒名簿を希望者に配布開始した。牧師館のメンテナンス、警報器(ガス・火災)を台所に設置、今後各室に報知器をつける。防火管理者並びに火元責任者は牧師をお願いする。LAN配線工事は当初の6回線を2回線に抑えた。
- ・宣教・諸活動報告。ぶどうの木は7月17日～8日にサマーキャンプを実施する、教会内で1泊する。大人の日曜学校。10月2日、細田衛士氏を講師にお呼びする。「リサイクルから見た現在、過去、未来」。
- ・広報報告。教会ホームページへの掲載に関し、今後、教会委員会、働きグループの各担当者は、掲載したい情報を牧師に依頼し、牧師は内容確認ののち、インターネット担当者に渡すという流れにする。
- ・施設管理。メンテナンス担当の補佐として牧師から、相応しい方に依頼する。
- ・東理夫さんから「福島・茨城などの風評被害にあっている農産物の直売を当教会で実施したい」という提案があり、教会の敷地で行うことについて賛同。

震災支援のお願い

後藤 務

現在、東北教区を中心とした支援のために「いっしょに歩こうプロジェクト」が管区の全面的な支援のもとで立ち上がりまし

主のみわざはおおいなり
そのみわざを慕う者は
みなこれをかんがえきわむ
詩111の2

今回の地震でアジア学院は多大な被害を受けました。三教会はナス・グループやバザーなど

さてこのたびの東日本大震災では、栃木県の県北に位置する当学院も、幸い人的被害は免

研修生活の中心になるキッチン、食堂、チャペルを含むコイノニアハウスの損傷が激しく、少なく

男子寮(非常階段破損)、女子寮(亀裂の為1・2階各1室使用不可本館断水中)、デンマーク豚

はありますが、当面使用は注意をすれば可能と判断しております。しかしどこも什器備品、書籍、資料等散乱しており、その後の整理もなかなか進んでおりません。



コイノニアハウス

この震災の為新年度は1ヶ月遅らせて5月2日からの研修開始と致しました。入学式並びに農業研修棟の奉獻竣工式は、5月14日を予定いたしました。

供給も続けております。



崩れてしまった野外ステージ

現在はアジア学院を支援して下さる多くの団体又個人の方々からの励ましやお祈り、又物・財政的ご援助を頂き、それに励まされて立て直しを図る力を得ているところですが、同時に万止むを得ず緊急に建物等の復旧に要する費用約500万円の募金を、皆様にお願ひすることに致しました。私共より更に急を要する膨大な数の方々がおられますので、ここに支援をお願ひするの

ナス・グループとアジア学院

菊池英男

記録によれば、「ナス・グループ」は一九七八年に山手グループの若い人達によつて始められたもので、その年から西那須野のアジア学院でのサマーキャンプに参加して

我々は作業場の二階に泊まり豚や鶏の世話、又森林を開墾して畑を造つたりと暑い夏をものともせずがんばりました。その作業の中でも大変印象に残ったのは矢野大先輩が中心となつて造り上げた野外ステージですが、この貴重な作品も残念ながら今回の東日本大震災で全壊に近い被害を受けてしまいました。

農業の研修を行っています。又多くの聖公会の聖職、信徒も参加しており、中でも現在南部フィリピン教区の主教を勤めている方もおられます。

当聖三教会は現在管区、教区、とともに後援会の有力なメンバーであり、又教区の幾つかの教会が積極的に経済的、精神的な後援を続けており、アジア学院にとつて聖公会は強力な支援者となつています。

ましわり

高橋顕司祭

典子夫人

耕さん(長男)

慈生さん(次男)

ゆたかさん(三男)

「男性は賑やかな青年のようで、女性は冷静な母親のようだ」―聖三教会に対する高橋牧師の第一印象をこう詩的に表現している。

教会はいま新しい聖職と4人の家族を迎え活気付いている。明快な語り口、きびきびした動作は、教会員の目には新鮮に映っているようだ。

高橋牧師の父君も聖職で、東北、沖縄の両教区で牧会活動に専念した。大学を卒業してすぐ

サラリーマンになった高橋青年は、それまで聖職をめざす意思は無かったと述懐する。しかし、「社会には様々な生き方の人がおり、色々な仕事がある。自分は一体、本当にどう生きていくべきなのか」といつた自問自答を心の中で繰り返す日々が数年間続いた。そんな心の葛藤を経たある日、突然「聖職志願」を決意、躊躇なく神学院へ。



27才の時だった。人生の生き方に苦悩する高橋青年に大いなる力が働き、揺り動かしたのかも知れない。普通、聖職者は、大学を終えてから神学校へ直行し社会体験が乏しいまま聖職に就くことから、時として、世間知ら

ずのそしりをささやかれることも少なくないが、この点、高橋牧師のサラリーマン体験は牧師としての働きに大いにプラスになつたに違いない。前任地の阿佐ヶ谷聖ペテロ教会には9年勤務したが、「私の経験では5年経つてやっとその教会のことが分かり、10年ぐらいで何とか一つの働きを成すことが出来るようになると思う」と語り、そして「聖三教会の方々からさらに神さまのみに近づき、励ましと希望と喜びに満ちたものになるように牧師としての正しい働きが出来ることを心から祈り求めている」と抱負を述べた。

(煩児)

希望の光射す杜の都を巡り

藤松曜

仙台駅で友だちと会い、閉上（ゆりあげ）で被災し仮設住宅に在る大学の先輩のところに向かいました。仙台東部有料道路を仙台東インターチェンジから南下していくと、震災当時防潮堤の役を果たした多くの人たちが難を逃れた道からは荒涼とした景色が広がっているのが見えました。例年なら田植えが終わって青々としている穀倉地帯は畦も道も判然としていない緑の少ない荒れ地が変わっていました。津波被害を受けた地域では港湾を除き海岸から3kmに宅地制限がかけられ国が土地を買上げ公園化する方向で計画が進められている様です。

名取インターチェンジを降りて閉上に向かうと原型をとどめない車や打ち上げられた舟が目立つ様になりました。街にはひとけが無く基礎だけがそこに住宅があったことを示している学校や大きい建物が廃墟になっている景色が続いていました。閉上の街に近づくとも通行制限されていて許可証が無いと先へ進めなくなり、先輩に電話をするとすでに仮設を出て離れた親類の家に移っている

とのことで次の目的地向かいました。



閉上の現状

岩沼駅で友だちの奥さんと落ち合い、名取市岩沼でボランティアのアシストをしている人と農家カフェでもいう風情のお店で会い岩沼の現状、ボランティアの活動状況を聞き、日曜日に行う岩沼の仮設住宅に暮らす人たちに向けてのボランティアの確認をしました。そのお店ははつきりした席は無く来客者は車座になってくつろぐ造りになっていました。後から若者が2人加わり話を聞くと福島県浪江町から仙台に避難している人たちでした。

友だちの家は泉区にあつて津波の被害は受けていませんが半壊認定を受けていました。彼の家に向かう途中酒屋に寄り宮城の酒を買いました。彼は酒もたばこもやらず動物性の物も食はず

仙人みたいですがお茶で私の晩酌に付き合ってくれました。夜半に翌日からの環境学習プログラムのメンバーが苗と資材を積んで東京から来ました。みんな大学の時からの友だちでとりとめのない話をしながら夜遅くまで過ごしました。

緑のカーテン

2日目は総合学習に緑のカーテン作りを組み込んでもらっている仙台市立将監小学校で授業をしました。校舎は大規模半壊で使えなくなり将監中央小学校の教室を借りて授業をしている状況で場所を変えての実施になりました。短い時間でしたが一緒に過ごした子供たちはいつもと変りなく元気で震災の影を感じませんでした。

仙台の友だちは福岡正信という自然農法を広めた人を信奉していて砂漠の緑化や荒れ地再生の活動を引き継いでいます、チエルノブイリで菜の花を使った土壌の除染が一定の効果を示し認知され始める中、ひまわりプロジェクト、菜の花プロジェクトと銘打って活動を始める人たちが出てきています。午後からひまわりプロジェクトを進めている盛岡

の人たちが砂漠の緑化にも応用されている粘土団子を使った農法を教わりに来ました。ひまわりを使った除染は後処理の問題や効果が必ずしも実証されているわけではなく、実際の評価はまだ先のことですが今は復興のシンボルとなる事を期待されています。盛岡の人たちは陸前高田の流失してしまった松林の後にひまわりの種をまいたり、瓦礫撤去が終わわり荒涼とした土地にひまわりを植えていく活動を広めています。へドロが上がり塩の抜けていない荒れた土地でどこまで育ってくれるか分かりませんが、今年の夏に少しでも咲いてくれて被災した人たちの気持ちと和らいでくれることを願っています。

3日目は仙台市立七郷小学校に緑のカーテンの授業をしに行きました。この小学校は仙台東部有料道路の山側に位置していて有料道路をまたいで学区があり、生徒の中には家や家族を失った子がいて、各学年に補助教員を複数置いて、保健室にはカウンセラーが巡回しメンタルケアにあたっていました。先生たちは緑のカーテンを通して子供たちが植物に触れることで優しい気持ちのがはぐくまれ、校舎を緑が

覆っているのを町の人たちが目にして少しでも安らいでもらえたいならと話していました。



苗を植える子供たち

望で実施になりました。
仮設住宅

午後からは岩沼でボランティア活動を始めるグループが救援物資をストックしている福島県伊達市に向かいました。放射線の気になる地域なので線量計を持って東北自動車道を南下していくと、白石を超える辺りから線量が上がって初め仙台では0.5μSv以下だった値が1μSvを超えていきました。救援物資は問題になる値を示すことが無かったの

午後からは岩沼でボランティア活動を始めるグループが救援物資をストックしている福島県伊達市に向かいました。放射線の気になる地域なので線量計を持って東北自動車道を南下していくと、白石を超える辺りから線量が上がって初め仙台では0.5μSv以下だった値が1μSvを超えていきました。救援物資は問題になる値を示すことが無かったの

5日目は岩沼の仮設住宅近くの公園に青空市の様に支援物資を並べ選んで持って行ってもらい、同時にお茶とお菓子のサービスをしました。今回のメンバーは教師、保育士、幼稚園経営者で子供たちに紙芝居を見せたり、お話しをしながら触れあうことを大切だと考えていました。前回の活動の時PTSDで失語症に

なつて避難所に馴染めず、少し離れたところのおじいさんと生活している少女が参加していました。その時保育士をしているスタッフに心を開いてくれて、その後文通を続け次第に改善される方向に向かっているそうです。今回もその女の子が来ていてその保育士の側にずっといました。夏休みに東京に招待して一緒にディズニーランドに行くことを楽しみにしていました。公園の片隅に喫煙所がありました。お話を聞かせてくれました。

復興を願うすずめ踊り

帰り際仙台に在る大学の同級生と連絡が取れお昼を一緒にすることにになりました。その友だちは不動テトラという海洋土木をやっている会社の東北支社長をしていて、震災被害の全体像や復興作業の現状を聞くことが出来ました。今は港の機能を回復するため航路確保のためのテトラポットを使う工法を中心に進めていて、ケーソンを使って港や防潮堤

を再建するためには時間がかかると言っていました。どういふ形で復興が進むか未知の部分が多く、落ち着きを取り戻すためには長い月日がかかりそうです。日高見というお酒が復興酒として話題になってよく飲まれているとのことでした。少し重めで馥郁とした香りを伴ったいいお酒です。飲み始めると当然一杯というわけにはいかず復興を歌ったお酒を飲み比べ二人ともそこそこの感じになったところでお店を出ました。外に出ると賑やかで、アーケードを笛と太鼓、かけ声とともにすずめ踊りの祭連が次々と通り過ぎていきました。



すずめ踊り

高橋頭司祭が聖三教会に着任

4月1日付で高橋頭司祭が聖三教会に着任されました。前任教会は阿佐ヶ谷の聖ペテロ教会で、沖繩教区にもいらつしやいました。

イースター礼拝

17日のシユロの日曜日、23日のイースタービヅルと礼拝が続き、24日の復活日には祝会の後に歓迎会が行われました。



各年代からの歓迎の言葉に続き、ぶどうの木からは自分たちで作った大きな教会の鍵が贈られました。ご家族の紹介の後リコーダーアンサンブルの演奏には飛び入りで演奏に加わって(練習

していた?)ハーモニウムを作り、最後はお琴の独奏を披露してくださいました。邦楽器の演奏を聞くことは滅多にないので大層采でした。高橋司祭は音楽は聴くのも演奏するのもお好きなのようです。



牧師任命式

大畑主教がこられて東京教区最後の牧師任命式が6月5日に行われました。この日は牧師任命式に引き続き、新しい洗礼盤の祝別とお二人の方の献信式も同時に行われました。洗礼盤は既に去年完成していたのですが主教の日程の都合で延期されていました。

高橋頭新任牧師をお迎えしての雑感

加藤望

東京教区大畑主教巡回日、高橋頭司祭は、自身の牧師任命式後のお説教の中で、竹田主教がかつて高橋司祭に贈られた六つの心得を述べられた。「どんな信徒とも話せること」、「祈りを大事にすること」、「学びを深めること」、「何でも話せる聖職者として」、「何でも話せること」、「長所は短所になること」、「そして「主教とは何でも話せる間になること」がその六つの進言であり、深く心に刻まれたと所信表明として語られた。

私もさすがに的を得た竹田主教の若い牧師に贈る言葉だと感心させられた。中でも興味深かったのは、「短所が長所になり、長所が短所になる」という進言である。言い換えると、高橋頭司祭がせつちかなところがあるという短所は、意思決定及び決断が早いという長所にもなるし、その逆に人の話しに耳を傾けることを怠り兼ねない側面もあるということにもなる。又お酒での失敗談は司祭の人間味を感じさせ信徒に親近感をもたらすという利点もある。

高橋頭司祭の長所の一つはひたむきで熱き思いという情熱的なところであろう。この素晴らしい人間の特質は場合によってはお年寄りや病弱な方とのしみじみとしたふれあいに生かされるとは限らない。このような逆説は信徒の方にもあり、人生皮肉にもプラスの特質がマイナスに、マイナスの性質がプラスに転ずることがあるものである。

しなやかな感性

しかしながら、私が思うところの高橋頭司祭は、かような人生の皮肉な縁にめげることなく、天性のしなやかでポジティブな感性と直感力を持ち前の素直な笑顔で牧師の三つの役割「牧職」・「司職」・「祈りを大事にすること」・「教職」・「学びを深めること」の難局を乗り切っていくかと思うし、信徒もそんな高橋頭司祭をささえていかれることでしょう。

今、東京聖三教会は一つの転機を迎えようとしている。それは財政難と聖堂及びトリニティーハウスの老朽化である。財政難は新しい信徒がたくさん増えていけば、解消するが、建造物の老朽化に対する解決策は筋縄ではいかない。代沢のこの土地に新しい聖



大人の日曜学校

車いすの安全な乗り方・使い方と題して東京教区・障害者関連活動連絡会の半田さんが6月19日に講習会を行ってくださいました。



30名ほどの参加者でしたが、実際に乗ってみたり押してみたり

堂と多目的ホールを建てるのか、50年前に青山の聖三教会と麹町のインマヌエル教会が代沢に合同移転したように、どこか新天地に単独移転か合同移転するのかそんな遠くない将来に決断を迫られることになる。そんな運命の星の下で東京聖三教会に召命されたのが高橋頭司祭なのかもしれない。

とは言っても、新しい聖堂の建立に奔走するあまり、肝心のそこに集う人の心を置き去りにしてしまうのであれば、教会は名ばかりになってしまいかねない。やはり、教会の将来計画に限らず、礼拝や典礼も、対外支援活動や交流活動も、多くの信徒らの思いと牧師の方針がかけ離れることなく常に信頼をベースにすり合わせられて進められていくことを願ってやまない。そうなれば、必然的に教会力が何十倍も倍加するであろう。

もちろんカリスマ性と霊性の人一倍強い聖職者であれば、かえって信徒への歩み寄りや霊性の妨げになるのかもしれないが、何やら老害のような練り言じみてきたが、東京聖三教会に連なる人々は何かと個人的に多士済済である、高橋頭司祭と教会に連なる一人一人がお互いに生かし生かされ

して体験をしました。ちょうどした段差を乗り越える時は乗車している人にとって大きな衝撃になるなど、初めて知ることが多く皆さんとても参考になったようです。

メンテナンス担当から

東日本大震災の影響で礼拝堂やトリニティーハウスに何か所か補修が必要になりました。2階の礼拝堂入り口上部の壁面は以前から劣化が進み補修を検討していました。今回の地震で剥落した箇所が増えなるべく早い補修が必要となっています。工事は大規模な補修が予想されているので計画が出来ましたら報告の予定です。

トリニティーハウスの屋根も以前から雨漏りしていましたが、今回の地震で更に広がり、放置しておけないので応急処置が施されました。トリニティーハウスは今後どう扱うか検討が必要となります。

教会の礼拝堂は50年以上、トリニティーハウスは更に年月を経ているので今後の補修には多額の費用が必要となります。現在補修計画を早期に検討する必要があります。

るように私も微力ながら尽力したいと思っている次第である。

やさしい目差し

今の世の中の企業社会では「人材」を人材・人材・人・人・人・人・人の五段階に格付けしているそうである。また明治の文豪夏目漱石は自らの文学で様々な人間の愛の姿を紡いでいる。小説「こころ」では愛は独占欲であり、「明暗」では力づくの愛、「道草」では愛は自分の理想の押し付けであるという。いずれも、あまりに人間的に本来の愛を失い、他人を愛せずにいる「他愛のない」人間模様を描いた漱石独自のリアリズムであると言われる。せめて、教会に集う者にとつては、全ての人は人財となり、他愛のない自愛ではない愛を追い求めたいものである。

高橋頭司祭は琴が弾けたり本格的な燻製が作れたり多才であるが、何より眼差しが優しい。秋田、沖繩そして阿佐ヶ谷と歩んでみえた人生、これからは代沢でもその眼差しが優しくありつづけてくれることでしょう。代沢の人たちも聖三教会の人たちも既にそんな頭司祭の優しい眼差しと笑顔をご家族の典子夫人と3人のご子息と共に歓迎しています。With love.

2011年バザー委員長と委員長補佐が決定しました

委員長に加藤史人さん、委員長を力強く補佐するメンバーに東邦子さん、名倉裕子さん、後藤敬一さんです。例年に比べると年代が大幅に若返っています。



持続可能なバザー

2011年委員長・加藤史人

バザーと聞くと少し大変そう、実際に色々大変なこともありつつ皆で頑張っている現状があります。ただ、高齢化だったり、若者不足が進む中、続けられ

なかつたり、責任の所在が分からなくなっている事が多いのではないのでしょうか。これ、いったい誰がやるの？ということ、ある気がします。10年後も同じ形式で続けられるかどうか、まったくもって不透明です。今すぐ全てを変えなければとは思いませんが、誰かに負担が偏らず、皆でモチベーションを高く持つて、これから先に続けられるバザーを考えてみたい、そう思っています。

若さ／新しさ

僕も31歳になりましたし、若くもないので今からバザーで新しいことを始めたいとばかりは思いません。例えば、何かを売ることの面白さを感じる、来場していただけるお客さんとのコミュニケーションを楽しむこと、そういう部分によりフォーカスするのもいいのではないのでしょうか。これは世田谷の真ん中で行われる祭りである、という感覚をみなで味わうことが出来たら嬉しいです。売り上げだけが目標であれば募金箱を持って駅前に立ったほうがいいのかもありません。でも、そうではなく、聖三教会で行うバザーの意味がきつとあります。それつて結構重要で建設的なことだと思えます。

ポスト震災／新しい時代

震災、原発事故、3・11以降から日本に住む人々の意識はがらりと変わりました。今までとなら変わらざる生きている人は少ないでしょう。僕は「時代が変わった」ことを感じました。戦後から築き上げてきた豊かさやお金の価値観などの定義は少しずつ変化していくでしょうし、今までと同じように生きてはいけな

いかもありません。そんな中、震災被災者のため、ということも含みつつ、新しい時代に向けたバザーを、教会活動を意識していく必要があると思います。僕は熱心な教会信徒ではないかもしれませんが、きつと今こそ教会が必要とされる何かがあると感じます。聖三教会が持つ土地、コミュニケーション能力、皆さんの素晴らしい力をお借りしつつ、面白い場になりたいと思います。「新しい時代に向けて」バザーを行いたい。そう思っています。

8月14日コンサートの時に風評被害を受けた農家のために東北6県の野菜を直販いたします。ご家族ご友人にも呼びかけいただければ幸いです。

夏の行事予定

- 7月17日(日) ぶどうの木デーキャンプ・今年は1泊のお泊まりキャンプを予定しています。
- 8月14日(火) 「祈り、調べ、平和のために」東日本大震災の支援、ことに親を亡くした子どもたちを覚えて。カントリーのグループ「オザック」の演奏と聖歌を皆さんで。
- 8月28日(日) ファミリーパーティーと映画会。子どもも大人も楽しめるディズニーアニメのダンボと短編1本を予定しています。
- 9月18日(日) 大人の日曜学校・映画会。敬老の日になみ若き日に胸をときめかせた懐かしの名画を予定しています。
- 10月2日(日) 大人の日曜学校・講演会。慶応大学教授・細田衛士氏を講師に迎え、ゴミとリサイクルの問題を考えます。
- 4月24日(日) 洗礼式
- ゲオルギウス・森田愛瑠斗ちゃん
- 6月6日(月) 堅信式
- 飯島喜久子さん
- ヴェロニカ中村溥美子

洗礼と堅信

著者はすべてのことを「いのち」の方から見ようと呼びかけています。これ以上「いのち」を傷つけて痛めてはいけなと語ります。原子力はいらぬ、原子力発電は、人類と共存できないと訴えています。そして、2011年実際にメルトダウンが起きて、もうまにあわなかったかもしれないという戦慄が走りました。

でも本当は、まだまにあつてほしいと心から祈る気持ちです。聖書に「スプラUNKニゾマイ」というギリシャ語があります。

「はらわたをつき動かされる」という意味です。強い「共感」を表しています。福島原発事故による人々の負った苦しみ、子どもたちの未来への影響を思うと、私はこの語を「怒り」と感じたいと思います。福島原発は、大量の放射性物質を大気と海に放出してしまいました。原発は、誰かに犠牲を強いる事になるのです。ライフスタイルの見直しも含めて、今すべての「いのち」を守るため、転換が迫られているのではないのでしょうか？まだ、まにあうのなら！

神さま、いのちの豊かさ、いのちの繋がりを大切にすることができまますように導いてください。

「無聊かつ年寄りのつぐまき」愛という言葉について

松田義夫

キリスト教を一言でいえば、「愛」の宗教だという人もいる。神学に疎い私にはそんないい方が正しいかどうか分からないが、恐らく西洋文化を積極的に導入した明治時代初期に外国人宣教師(主に中国で伝道活動していた)によってよく使われた言葉ではないかと推測される。だからキリスト教に「愛」というふうには日本人の脳裏に刷り込まれたのではないだろうか。私たちは、文章の中で隣人愛とか人間愛という熟語として使うことはあっても「愛している」と動詞として日常会話の中で使うことはほとんどない。「とても好きだ」という大和(やまと)言葉で表現するのが普通だ。文章に「友人をととても愛している」と表現してもなぜかこの言葉は文章の中に溶け込まず、その言葉だけが浮き上がっているように感じるのにはなぜだろうか。

言葉の専門家として定評のある加藤望さん、その辺のことを質問したところ、質問したこと

を後悔するような資料を頂戴した。なんとB4紙に細かい文字がびっしりと横書きされた「愛」の概念。「日本語における『愛』」、「仏教思想の『愛』」、「儒教における『愛』」、「キリスト教における『愛』」、「心理学、精神医学における『愛』」、そして『同性愛』といった具合である。多種多様な愛の概念、奥深さ。そしてはつきり分かったことは、『愛』は大和(やまと)言葉ではなく、中国から輸入された翻訳外来語、つまり「漢語」だったのである。そう言えば「枕草子」や「源氏物語」などの古典文学には「愛」の言葉は一言も出てこないのもうなずける。

「心理学、精神医学における『愛』」によれば、「愛とは自分にとって価値ある対象を慕い、慈しみ、それに引きつけられていく精神的過程と言えらる。隣人愛、友愛、人類愛、祖国愛、神への愛、など多様な愛の形があるが、基本は異性間の愛情にあると言えらる」と解説している。

いずれにしても「愛」という言葉の概念は分かるとしても、日本人の精神構造にいまつなじまない言葉。私たちは「神は愛なり」と表現した場合、日本人の心の琴線にどの程度触れるの

リレートーク

「まだ、まにあうのなら」

小林幸子

1987年5月に『まだ、まにあうのなら』という小冊子が発行されました。著者は福岡に住む二人の子どもの母親です。1986年チェルノブイリ原発事故が起き、8000キロ離れた日本でも放射能が検出されたのです。

放射性物質が体内に取り込まれると、さまざまに蓄積され、ガンになる可能性があるのです。子どもたちのために著者は、原子力・原発について学び、考え、知人宛てに『まだ、まにあうのなら』を書きました。

この手紙が小冊子になったのです。24年前に書かれたのですが、福島原発で起きたことが予想されています。「冷却装置が停電で止まれば短時間で大惨事を招く。これは地震によっても起こる」